

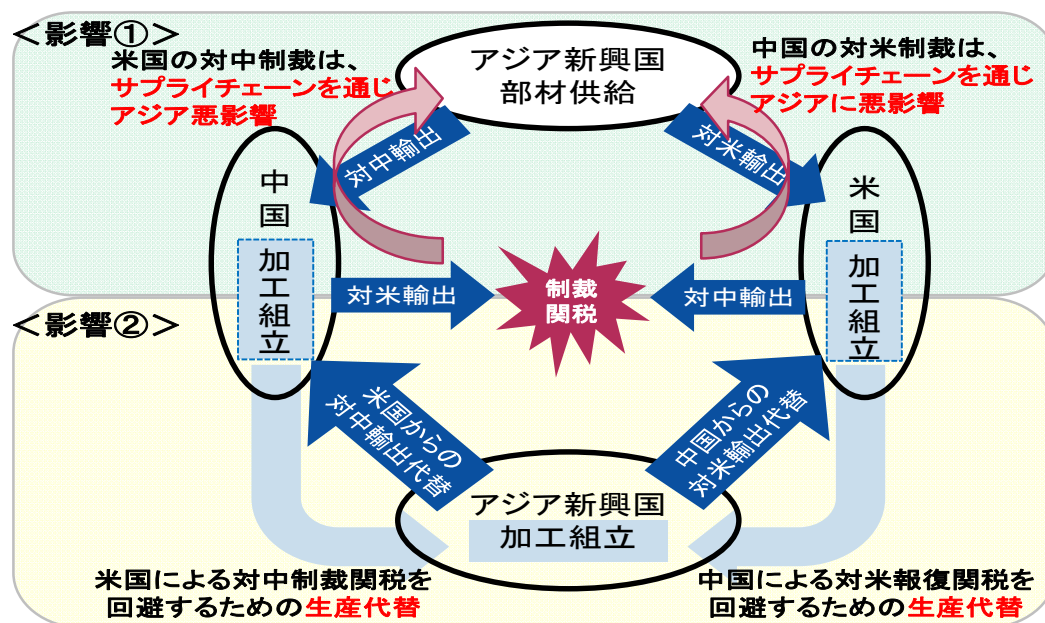
米中貿易摩擦アジアへの影響、マイナスとプラス要因

専務執行役員 チーフエコノミスト 高田 創

みずほ総合研究所は、米中貿易摩擦のアジアへの影響に関するレポートを発表している¹。ここでは米中貿易摩擦のアジアへの影響について、サプライチェーンを通じたマイナスの影響だけでなく、生産代替を通じたプラスの影響も、国別かつ業種別に試算している。各国別では、いずれもネットでプラスの影響を受けると試算され、この規模は最大のメリットを受けるベトナムで0.5%程度となる。ただし、当面はマイナスの影響が先行する可能性が高いことに留意する必要がある。一方で産業別では、多くの国でPC関連と一般機械にプラスの影響が集中するなか、ベトナムとカンボジアに関しては、カバン・帽子・自転車といった低付加価値産業において生産代替が多くなる可能性がある。

下記の図表は米中貿易摩擦の波及経路を示す概念図であり、影響①(マイナスの影響)と、影響②(プラスの影響)が同時に存在する。影響①のマイナス面は、米中の貿易摩擦による両国の貿易の減少が、サプライチェーンを通じ部材を供給するアジア等の輸出に及ぼすことを指す。一方、影響②のプラス面は、中国の対米輸出や米国の対中輸出がアジアなどに代替され、代替先が米中向け輸出品の生産を増やすことによって生じるものだ。

■図表: 米中貿易摩擦の波及経路

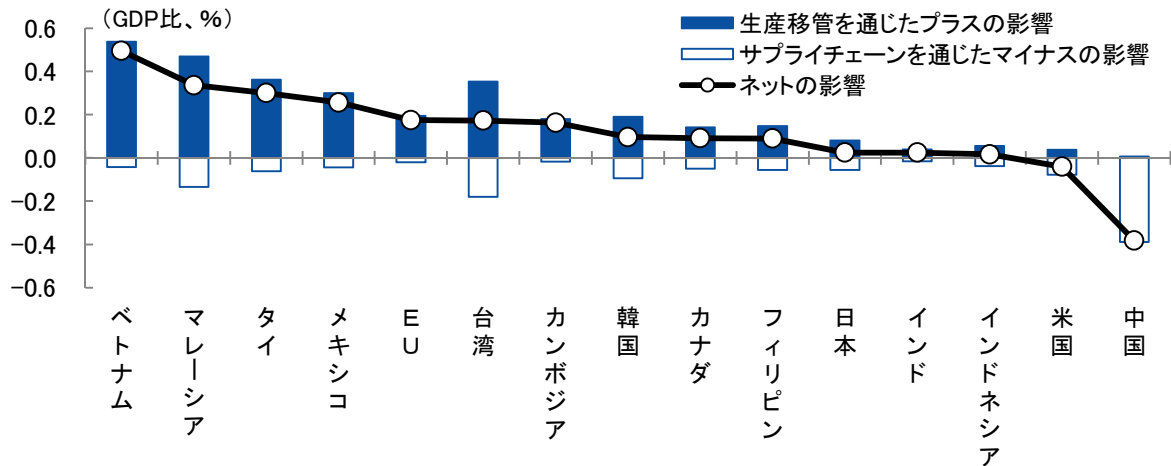


(資料) みずほ総合研究所作成

次ページの図表は、より詳細に米中貿易摩擦の国別影響を示したものだ。先述のマイナスとプラスのネ

ットの影響を合わせると、当事国の米中ではマイナスの影響が大きいのに対し、第三国ではネットでプラスになる。ネットのプラスが最も大きいのはベトナムで、そのGDP比は0.5%程度と試算される。

■ 図表：米中貿易摩擦の国別影響



(資料) OECD ICIO、国連 Comtrade などよりみずほ総合研究所作成

また下記の図表は、米中貿易摩擦の影響を業種別に詳細に見たものだ。まず、マイナスの影響は、台湾、マレーシア、韓国、フィリピンといった国・地域のPC関連分野で目立つ結果となった。一方、プラスの影響については、多くのアジア各国・地域でPC関連及び一般機械に集中する。例外として、ベトナムでは繊維にもプラスの影響があり、カンボジアでは輸送機械と繊維に集中している。

■ 図表：米中貿易摩擦の影響(業種別寄与度)

	食品	繊維	紙・木製品	石油・化学	ゴム	金属製品	一般機械	PC関連	電気機械	輸送機械
ベトナム	マイナスの影響	プラスの影響								
マレーシア	マイナスの影響									
タイ	マイナスの影響									
メキシコ	マイナス効果									
台湾	マイナスの影響									
カンボジア	マイナス効果	プラスの影響								
韓国	マイナスの影響									
フィリピン	マイナス効果									
日本	マイナスの影響									
中国	マイナスの影響									

(注) 上記図表の分析に基づき、主な国・産業別の影響(各国のGDP比)を定量的に示したものだ。

(資料) OECD ICIO、国連 Comtrade などよりみずほ総合研究所作成

ただし、以上の分析には留意点があることを認識する必要がある。第1は、先の試算でプラス効果とした生産代替にはその効果が生じるまでに時間を要し、まず先にサプライチェーンを通じたマイナスの影響が先行する点である。第2は、米国に対し貿易黒字が大きい国々については、米国から直接的に貿易摩擦の是正に関する圧力が掛かるリスクがあることだ。従って、サプライチェーンや貿易摩擦に絡む世界的な減速の効果を勘案すると、マイナス効果が予想以上に大きくなるリスクには留意が必要だ。

1 「米中貿易摩擦のアジアへの影響」(みずほ総合研究所『みずほインサイト』2018年12月26日)

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。なお、当社は本情報を無償のみ提供しております。当社からの無償の情報提供をお望みにならない場合には、配信停止を希望する旨をお知らせ願います。